

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスあつた（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 14日 ～ 2025年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 14日 ～ 2025年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数)	4人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が子どもたちの姿を集団で捉え合い、子どもの発達を促すあそびに取り組んだり、それぞれのお子さんの姿に合わせた関わりを大切にしている	専門的な知識や支援の充実をはかるために、法人全体で計画的に職員研修に取り組んでいる。	PTやSTなどの専門的な訓練は事業所内で出来ないため、中央療育センターや地域の事業所と連携を図りながら、必要に応じて利用できるサービスへとつないでいく。
2	乳幼児期から、学齢期まで利用できるサービスがあるため、子どもの姿を継続的に捉え、つながりのある支援を提供することができる。	保護者の方が、少し先の生活の見通しが持てるように、先輩お母さんとの交流の場を設けたり、学習会を設定したりしている。	基幹相談支援センターと連携を図り、学校を卒業した後の生活の事や、福祉制度の学習をする機会を設ける。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・建物の老朽化（隙間風、建物が暗い、雨天時の対応）	・行政の立て替え計画がまだ数年先のため、大型修繕が不可能なため。	・部屋や扉のリフォームなど出来る範囲で修繕を進め、安全に生活できるようにしていく。 ・必要な場合には、危険箇所も含め、早急に修繕などをしていく。
2	・交流保育の機会がない。	・コロナ禍以前は行っていたが、それ以降つながりが切れてしまっている。	・地域の公立保育園と年2回の交流を行っていたこともあったため、再度連絡を取り合い、検討をしていく。
3	・定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信しているが、紙媒体が多い。	・他のセンターでコドモンなどのアプリを試験的に導入している園もあるが、ICT化にも賛否があるので使用してみてもいい評価をしているため。	・保護者のみなさんの意見を聞きながら、どのような媒体が良いか研究、検討をしていく。

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	デイサービスあつた（児童発達支援）					公表日	2025年 3月 26日	
						利用児童数	10人	回収数 10人
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%				部屋も人が少なく、動きやすいと思う。園庭も広く、たくさんあそべる。 子どもが活動に集中できるように、気になるものが見えないように工夫してもらっています。 丁度良い。園庭も程よく広い。	引き続き、それぞれのお子さんの姿に合わせた環境づくりを大切にしていきたいと思います。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%				日常生活で活用できるような指導をしてもらっています。 何かあてもすぐ気づいてくれるので助かる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	90%			10%	オシッコができるようになったので、環境に適応でき始めたと思う。 ゴミ箱や少し気になるものがあると触れてしまいそうになりますが、トイレの練習をするのに子ども用の便器など有効に活用できています。 あそぶ部屋は分かっているが、一番奥へ行こうとするので微妙。	適宜、お子さんが利用しやすい環境に整えていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	90%			10%	トイレの手洗い場は黄色の方が水の排水が悪く溜まった水で子どもが水遊びをしてしまう。 水場の老朽化が目立つ。 どこも清潔にされています。何か不都合なことがあると、すぐに改善して下さります。	必要に応じて可能な範囲で修繕を行っていきます。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%				子どもをしっかり見ていただいているし、子どもも先生たちが好きになっていると感じる。 子どものやりたい気持ち、やりたくない気持ちを汲み取って本人の納得がいくまで待ってくれる。 子どもの楽しいと思うことを引き出して下さり、無理のない活動が行えていると思います。 言う事を聞かないことが多いが、急かされる事もないので安心。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	90%			10%		引き続き、家庭での姿を丁寧に聞きとり、利用されるお子さんの捉えを共有し、支援について
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	90%			10%	まだ利用し始めたばかりなので、よく分からない。	いろいろな活動を通して、個々の好きなこと、苦手な事など経験の幅を広げられる内容を取り入れていきます。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%				正解がわからないが、適切な支援が設定されていると思う。 無理のない内容だと思う。	引き続き、それぞれのお子さんの姿をもとに、必要な支援を検討し、支援内容に反映させていきます。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	90%			10%	思います。特に子どもが音楽大好きです。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	60%	20%	10%	10%		
保護者への支援	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	100%				まだ少ないが、参加している。	今年度もお父さんを対象にした研修など、我が子の関わり方のヒントになるような機会を検討していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100%				先生との聞き取りでしっかりコミュニケーションが取れていると思う。 子どもの困りごとは、すぐに相談することができ解決することができています。 先生たちが色々気付けて暮れて、声を掛けてもらったり、ノートをもとに話が出来て、分かりやすくアドバイスもらえる。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%				しっかりしていただいている。 とても丁寧に対応していただいている。 毎回、家での様子を連絡用紙を用いてお話しする機会があります。	

の 説 明 等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%				全ての先生とは言わないが、支援されていると思う。 家族や友人委は話しにくいことも話せて、共感してくれるのでとても嬉しい。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	90%			10%	夏祭りなど、きょうだいも参加して家族そろって楽しむ機会があります。	引き続き、ご家族が安心して参加していただけるイベントを企画していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%				大きな相談はしたことはないが、何かあれば頼りになると思う。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	90%			10%		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	100%				毎月のおたよりや写真を添えたおたよりを作ってください、もれのないように行事に参加したり、活動の振り返りができています。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%					
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	50%		20%	30%	訓練あり◎ マニュアルは書類など保護者で確認できるものがあるのか？	保護者の皆さんに確認していただける場所に用意をしています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	60%		20%	20%	避難訓練は園庭に出て点呼する、避難までの時間を計るなどもう少ししっかりやってもいいと思う。 例えば火災などで建物から出なくてはならない際の避難先やその経路など理解できていない。 子どもも含めた避難訓練など実践的に行われました。 子どもも含めた避難訓練など実践的に行われた。	親御さんも含めて、実践的な訓練を定期的に行っています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	90%			10%		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	90%			10%		
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	90%			10%	あそぶのは大好きだが、トイレや手洗い、ご飯は嫌がるので、半々くらいかと思う。	お子さんのペースに合わせて、安心して過ごせる生活・あそびづくりを
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	100%				家でできない活動を経験できています。また、子どもの好きなこと、得意なことも知ることができています。 あつたへ行く道を通ると嬉しそうにする。	引き続き、それぞれのお子さんが楽しく通える内容を職員でと検討し、その中での姿を保護者の皆さんと共有する事を大切にしていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%				母子通園なので親子のきずなは深まりました。子どもと先生との関わりがもっと増えるといいなと思いました。 LINEでの連絡手段があると便利だと思う。 子どもを安心して通わせることができています。 すれ違う先生方が声をかけをして下さり、とても良い雰囲気の中で活動させていただいていると思います。 我が子が自閉症スペクトラムとわかってから、不安になり認めたくない気持ちや孤独を感じることもあったが、職員の皆さんの笑顔や優しい言葉のおかげで前向きな気持ちになれた。ママさんたちも良い方が多く、ここが通いやすい所だから何だと思う。のびのび過ごすところが出来て良かった。	連絡手段は、法人内で検討し、保護者の皆様が利用しやすいツールを検討していきます。 引き続き事業所職員全体で、利用しているお子さん、親御さんの支援に携わっていきます。 親御さんの不安な思いに寄り添い、気持ちを受け止めることを大切にしながら、安心して過ごせる場所にしていきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
デイサービスあつた（児童発達支援）		2025年 3月 26日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	75%	25%	できる限り環境の工夫はしている。他の事業と共有しているため難しい部分はある。	必要に応じて、物の配置を変えたり、視覚的に見えない工夫をします。 バリアフリーではないため、段差の上り下りがスムーズにできるよう、職員が補助します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		建物は老朽化しているが、必要に応じてメンテナンスしてい。清掃は丁寧にしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		他の事業との兼ね合いはある	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	75%		特定の職員のみになっていしまう	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%	外部評価の機会が作りにくい	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		今年度は、パート職員も含めて多くの研修に参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		100%		今後公表予定です。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		足りていないが、心がけている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	50%	50%		誰でも判断しやすいツールを利用していく事を検討します。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	75%	25%	今年、変わってきたところで判断しにくい。計画を立てるのも、伝えるのも難しくなったと感じる	ガイドラインについては書面に記されたもの示し、支援計画の内容にどう取り込まれているかを丁寧に説明していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	75%	25%	全員で話せる時間はない。	全員で行えない場合でも、内容を共有し、具体的な支援につなげていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		足りていないが、そこは個々の力でカバーし合いながら保たれていると思う。 全員で話せる時と、そうでない時はある。	全員参加できない時は後で伝えたり、記録を共有する事で確認をします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		当日共有できないことは記録を利用して共有しています。	意識的に時間を設定し、短い時間でも共有できる時間を作るようにします。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	75%		丁寧に出来ていない。	日々の連絡ノートの聞き取りにより、家庭での姿も含めて丁寧に共有はしているため、必要に応じて計画に反映させていく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	75%	25%		複数の事業所を利用しているお子さんがあまりいないため、担当者会議を開催する事はないが、必要に応じて、情報はきょうゆうしている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%			

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		100%		ちゅうりっぷ組は2歳児さんまでの利用の為、基本的には情報提供することはありません。就学時に必要な情報があれば共有していきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		100%		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	50%	50%	公園などの地域の設備を利用する時に場所を共有して関わる機会がある	発達ゆつくりさから、交流を望まれない方もいます。子どもや保護者の姿から、交流の機会が必要と感じた時は、地域の園の協力の元、機会を作りたいと考えています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		お父さん向けの研修の企画 土曜日に父が参加できる場を作る	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		行っているつもりだが、適切に行えているかはわからない。	連絡ノートや登会時の聞き取りを丁寧に行い、必要に応じて面談を設けたり、助言を行っている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		きょうだい児も、通っている園の都合で休みの時は、一緒に参加する事を受け入れている。	父親向けの研修会の開催や、兄弟さんが参加できる行事は今後も定期的に行っていく予定です。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		紙ベースではあるが、発信している。 必要に応じてメールも利用。	法人内で、試験的に導入している施設もあるため、利用してきたところの実態も含めてどういったものが良いか検討をしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	75%	25%	注意しきれていない所もある。	職員室以外の場所で個人が特定される情報を置いておかないことを徹底します。
非常時等の対応	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	75%	25%		コロナ禍以降地域に公開しての行事は行っていないが、色々な方が参加できる物を検討していきたいです。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			現在作成中です。具体的に訓練の内容も掲示し、保護者の方にも周知していきます。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		出来ていない。	今年度中に策定していきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			今年度はアレルギー児が居なかったが、書類を提出される方に対しては、オヤツ・給食共に対応しています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			現在作成中です。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		100%		安全計画は作成中です。どういった内容でお子さんの安全を守っていくかを紙面で確認するとともに、閲覧できる場に用意しておきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスあつた（放課後デイサービス）			
○保護者評価実施期間	2025年1月14日 ～ 2025年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数)	21人
○従業者評価実施期間	2025年1月14日 ～ 2025年2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数)	4人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が子どもたちの姿を集団で捉え合い、子どもの発達を促すあそびに取り組んだり、それぞれのお子さんの姿に合わせた関わりを大切にしている	専門的な知識や支援の充実をはかるために、法人全体で計画的に職員研修に取り組んでいる。	PTやSTなどの専門的な訓練は事業所内で出来ないため、中央療育センターや地域の事業所と連携を図りながら、必要に応じて利用できるサービスへとつないでいく。
2	乳幼児期から、学齢期まで利用できるサービスがあるため、子どもの姿を継続的に捉え、つながりのある支援を提供することができる。	保護者の方が、少し先の生活の見通しが持てるように、先輩お母さんとの交流の場を設けたり、学習会を設定したりしている。	基幹相談支援センターと連携を図り、学校を卒業した後の生活の事や、福祉制度の学習をする機会を設ける。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・建物の老朽化（隙間風、建物が暗い、雨天時の対応）	・行政の立て替え計画がまだ数年先のため、大型修繕が不可能なため。	・部屋や扉のリフォームなど出来る範囲で修繕を進め、安全に生活できるようにしていく。 ・必要な場合には、危険箇所も含め、早急に修繕などをしていく。 ・大規模修繕に関しては、名古屋市とともに検討していく。
2	・交流保育の機会がない。	・コロナ禍以前は行っていたが、それ以降つながりが切れてしまっている。	・地域の公立保育園と年2回の交流を行っていたこともあったため、再度連絡を取り合い、検討をしていく。
3	・定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているが、紙媒体が多い。	・他のセンターでコドモンなどのアプリを試験的に導入している園もあるが、ICT化にも賛否があるので使用してみでの評価をしているため。	・保護者のみなさんの意見を聞きながら、どのような媒体が良いか研究、検討をしていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名

デイサービスあつた
(放課後デイサービス)

公表日 2025年 3月 26日

利用

児童数 23名

回収数 21名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%				掃除はされているが、建物自体が非常に古い。 建物の老朽化は否めないが、新しくなっている部分もあり、これから、より子ども達が過ごしやすい環境になっていってくれたら嬉しい。	・老朽化に関しては、所内で議論を進め、行政に働きかけていきます。 ・修繕が必要な場所においては、順次業者と相談しながら安全に利用していただけるようになります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	66%	5%	24%	5%	身体がどんどん大きくなり、公園、遊具等地域の遊び場を利用したくても、年齢的な制限がかかっていたり、安全上小さなお子さんがいると利用できない事が多いため、園庭や広い遊戯室等で目一杯身体を動かせることに大変感謝している。	子どもたちの学年齢に合わせて、生活やあそびを发展させ、計画的なプログラムを実施します。 ・日々、ニーズを捉えながらあつた全体として、デイの活動の検討や見直しを行っていきます。 ・年間予定も含め、1～2か月単位で活動内容を具体化し、保護者の皆さんにも見直しを持っていただけるように努めます。
適切な	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	95%	5%				・それぞれの姿を丁寧に捉え合い、子ども主体のプログラムを考えていきます。 ・子どもたちの姿を踏まえ、活動の内容を改善したり、発展させていく事で、より楽しめる活動を考えていきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	95%			5%		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	90%			10%		年に2回以上は、親御さんからのアセスメントや他事業所の姿を基に、個別の支援計画を作成します。また、日々の支援内容については、お迎えの際にその日の様子と共に伝えさせていただきます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	95%			5%		・送迎の際に、その日の活動の内容や子どもの様子は個々に丁寧に伝えさせていただきます。

支 援 の 提 供	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	86%		5%	10%	・一回に盛りだくさんのプログラムがあり、家族という小さな単位ではできない経験をたくさんさせていただき、感謝しています。おやつも作ることまで今まで食べらなかつたものもチャレンジする様になった。初めて口にしたのがあつただったというものがたくさんある。 ・デイによっては1ヶ月のカリキュラムが前の月にわかる所もあつ。特性上、先の予定がわかると安心したりその日を楽しみに毎日過ごすことができるため、少し早めに当日の活動内容がわかるとありがたい。 - おやつや、お出掛けなど、子ども達が楽しくデイを利用出来るように考えてくれている。	・引き続き、それぞれのお子さんの要求にあわせた活動を計画し、取り組んでいきます。また、集団の良さを活かし“みんなで楽しむ”事を大切にしていきたいと思います。 ・年間の予定が決まり次第お伝えします。 ・直接お伝えすることが出来なかったことに関しては、紙面やメールなども利用してお伝えしていきます。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	14%	33%	19%	33%		・子どもたちの要求に合わせて、地域の児童館で楽しめるプログラム等を探し、参加できる機会を探します。 ・地域のあそび場や公園、公共施設へは積極的に出かけ、地域の子どもたちとの関われる機会を作ります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	95%	5%				・年度の始めだけでなく適宜、運営規定、支援プログラム、利用者負担等について説明する機会を作ります。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	95%			5%		・アセスメントを基に計画を作成し、支援の中で大切にしたい事は共有していきます。見直しが必要な場合は、計画を変更し、新たな支援につなげていきます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	38%	29%	19%	14%		・熱田区の基幹相談支援センターの協力を頂きながら、制度の事や、福祉サービスのことなど、保護者の方のニーズに合った学習会を開催する予定です。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	95%	5%				・送迎の際に、その日の活動の内容や子どもの様子は個々に丁寧に伝えさせていただきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	86%	14%				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	57%	29%		14%	・以前されていたアートや音楽等、年間計画の中に何回かあると嬉しいと思うハロウィンやクリスマスなど季節行事や親子行事もあると他の親御さんとの交流もでき嬉しい反面、他のきょうだい関係や仕事等で難しいのかとも思う	・定期的に保護者が交流できる茶話会などの時間を設けたり、デイサービスを利用している子どもたち主催のイベントも企画していきたいと考えています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	90%			10%		・送迎の時間を利用し、家庭の様子や学校での様子を丁寧に聞きとります。必要に応じて、利用できる福祉サービスを紹介したり、利用できる施設等に繋がります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	90%		5%	5%		

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	62%	5%	10%	23%	・行事予定は、半期ごとに紙面でお伝えしていきます。 ・直接お伝えすることが出来なかったことに関しては、紙面やメールなども利用してお伝えしていきます。 ・法人のホームページを通して、自己評価の結果は公表させていただきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	81%			19%	・必要な時は保護者の方に承諾を頂くようにします。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	71%	10%		19%	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	62%	5%		33%	巨大地震の危険性が高まっているので、防災について、定期的な避難訓練といざと言うときパニックにならないための、逃げる手順書のようなものの掲示やパンフレット作成等防災指導等の頻度が増えると感じる。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	76%	10%		14%	・事業所の安全計画については、保護者の方がいつでも閲覧できる場所に掲示するなどの工夫をします。内容は、適宜見直しをし、職員間で共有していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	71%			29%	・怪我だけでなく、ヒヤリハット等で家庭にも共有した方がよい内容については、送迎の際にお伝えします。 ・病気や怪我ですぐに受診が必要になった場合は、保護者に連絡を入れた上で対応させていただきます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	100%				親子ともども通うのを楽しみにしています。大満足です。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	95%			5%	このまま楽しく通えたら嬉しい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	95%	5%			・デイの運営や取り組みに関しては、担当だけでなく、事業所の職員も含めて検討・改善をしていけるように努めます。また、社会情勢もふまえて、地域の他事業所と連携を取りながらあつたのデイの在り方を考えていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		デイスサービスあつた(放課後デイスサービス)		公表日		2025年 3月 26日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	75%	25%	身体が大きい子が多いため、10人定員が一部屋にいと狭い。時間差をつけるなどの工夫をしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		やりたい事によっては、職員が足りないと思うときもある。(配置は適切)		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	25%	75%	児発と使用する部屋は同じなので、やり切れていないこともある。 他の事業と共有部分もあるため、配置する物の工夫は必要。個別に配慮が必要な子に対しては、部屋をわけたり、パーティションで安心できる空間を作っている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		子どもに合わせて、パーティションで仕切り、安心して過ごせる場所を作っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	25%	75%	もっと広く職員に広められるといい。 職員が揃って話をできる時間が足りない。	日々の業務に追われてじっくりと共有デキル時間がないため、意識的にケースの時間をつくっていく必要はある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	75%	25%			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	75%	25%	今後（今年度中）、法人のホームページに掲載していく予定。	公表していることを保護者に告知する必要があります。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイスサービス計画を作成しているか。	100%				
	13	放課後等デイスサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%				
	14	放課後等デイスサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	75%	25%	共有する時間がなかなか取れない。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%				
	16	放課後等デイスサービス計画には、放課後等デイスサービスガイドラインの「放課後等デイスサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	75%	25%	今年度からやっていることで、適切なのか判断しづらい。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	50%	50%	担当職員に負担が行きがち。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%				
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイスサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		もっと時間がとれるといい。特に土曜日のプログラム。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	25%	75%	記録を取るだけで終わることもある。(終業時間になる)	共有が必要なことについては、後日話したり、記録で残して共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%				
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイスサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	75%	25%	時間がとれない。		
	24	放課後等デイスサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	100%				

	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	75%	25%	学校とのやりとりはあまりない。保護者頼みになっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	75%	25%	移行に当たって、情報を求められたことはないが、必要に応じて保護者を通して伝えていくことは大切にしていきたい。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%		他の事業所を見に行ってみたい。過ごし方は場所によって変わらと思うから。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		100%	講演へ出掛けた時は、遊具を共有することもあるので、多少の交流はあるが、コロナ禍以降は地域の施設へ出向く事はない。	利用している子どもに合うプログラムがあれば、児童館へも出かけることは検討したい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		参加はあまりない。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしている	75%	25%	交流を目的とした場、機会となると出来ていない。送迎時に親同士が話す機会は多いと思う。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	75%	25%	出来ていない。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	75%	25%		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	75%	25%		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		毎回、送迎時に協力してもらい、その日に使用する食材や調味料等を確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	75%	25%		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	75%	25%		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%			